

1950-1988

下水道のあゆみ【昭和】



昭和56年 糸井中継ポンプ場



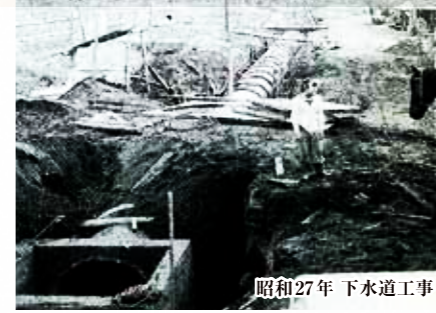
昭和54年 勇払下水処理場



昭和50年 西町下水処理場



昭和34年 浜町下水処理場



昭和27年 下水道工事



昭和25年 冠水被害

- 昭和58年 ● 幌内川中継ポンプ場の運転開始。
- 昭和57年 ● 西町下水処理場 消化ガス 発電設備の導入
- 昭和56年 ● 糸井中継ポンプ場の運転開始(糸井第1中継ポンプ場の廃止)。
沼ノ端中継ポンプ場(φ400系)の運転開始。
勇払下水処理場の水処理施設1系列増設(合計2池)。
- 昭和54年 ● 積雪寒冷地では国内初となるオキシゲーション・ディフュージョンによる勇払下水処理場の運転開始。
沼ノ端地区の管渠整備開始。
- 昭和53年 ● 浜町下水処理場の2次処理開始(標準活性汚泥法)。
- 昭和52年 ● 勇払地区の管渠整備開始。
錦岡中継ポンプ場の運転開始。
- 昭和50年 ● 西町下水処理場の処理方法変更(標準活性汚泥法)。
- 昭和47年 ● 汐見町中継ポンプ場(合流系)の運転開始。
- 昭和46年 ● 糸井第1中継ポンプ場の運転開始(現在は廃止)。
- 昭和45年 ● 受益者負担金の徴収開始。
- 昭和43年 ● 西町下水処理場の運転開始(高速エアレーション法)。
- 昭和40年 ● 元町中継ポンプ場の運転開始(現在は廃止)。
- 昭和39年 ● 西町地区の管渠整備開始(矢代町など)。
- 昭和34年 ● 道内初の終末処理場となる浜町下水処理場(高砂)の運転開始(沈殿法)。
下水道使用料の徴収開始。
- 昭和27年 ● 下水道工事に着手(駅前から旧苫小牧川まで)。
「苫小牧市下水道条例」の制定。
- 昭和26年 ● 下水道事業計画に着手。
- 昭和25年 ● 8月1日の集中豪雨(総雨量447.9mm)市街地全域が冠水被害。
(世帯の7割が浸水、橋の流出45箇所、覚生川鉄橋にて列車脱線転覆など)。

下水道のあゆみ【平成～令和】



令和4年 下水道フェスタ



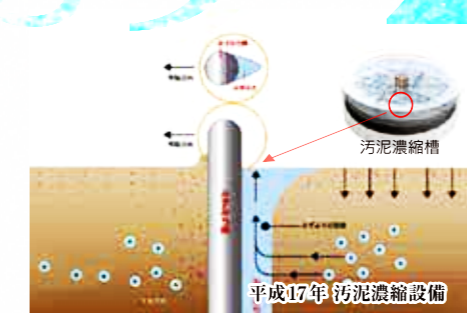
令和4年 水災害リスクマッピングシステム



平成26年 冠水被害



平成26年 冠水被害



平成17年 汚泥濃縮設備



平成9年 勇払下水処理センター

- 平成元年 ● 勇払下水処理場の水処理施設1系列増設(合計3池)。
元町中継ポンプ場の廃止。
「処理場」から「処理センター」に変更。
- 平成9年 ● 明野中継ポンプ場の運転開始。
勇払下水処理センターの処理方法変更(標準活性汚泥法)。(現在は休止)
- 平成13年 ● 勇払下水処理センターコンポスト化施設の運転開始。
- 平成16年 ● 西町下水処理センター汚泥消化ガス発電設備の更新(3台)。
西町下水処理センター汚泥消化ガス発電設備の更新(2台)。
- 平成17年 ● 汚泥濃縮設備の技術で「第1回 ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)」、「第7回 国土技術開発賞優秀賞」を受賞。
- 平成20年 ● 汐見町中継ポンプ場(分流系)の運転開始。
- 平成21年 ● 勇払下水処理センターの水処理施設1系列増設(合計2池)。
- 平成24年 ● 西町下水処理センター場内ポンプ場の運転開始。
- 平成25年 ● 8月27日市内集中豪雨(1時間90mm)。
中央部及び西部地域が冠水被害。
- 平成26年 ● 雨量監視システム運用開始。
9月11日市内集中豪雨(1時間100mm)。
中央部及び西部地域が冠水被害。
- 平成29年 ● 「とまちヨッパマンホール蓋」の設置。
マンホールカード配布開始。
- 平成30年 ● 9月6日北海道胆振東部地震により道内全域停電。
非常用発電機による長時間運転の実施。
沼ノ端中継ポンプ場(φ900系)の運転開始。
- 令和2年 ● 「ポケふた」「ダイヤのA act II マンホール蓋」の設置。
- 令和4年 ● 水災害リスクマッピングシステム運用開始。
「第15回 循環のみち下水道賞(国土交通大臣賞)」を受賞。
下水道事業70周年。
下水道フェスタ開催。

とまごまいの下水道

